

【熊本県賞】

世界に誇れる水を後世に

熊本県 学校法人鎮西学園真和中学校 二年 佐藤 環

人間にとって必要不可欠な水。水がなくては生きられない事は誰もが知っている。しかし、そうは分かっているとしても、水が無限であることを忘れ、自由奔放に水を使い、次々に自然を壊していく。水を簡単に手に入れることができる私たちは、水を失う前にどのように行動すべきなのだろうか。

幸いにも、私の住む熊本市は蛇口をひねれば、きれいなミネラルウォーターを飲むことができる。約七十四万人の水道水源は全て地下水でまかなわれている。熊本市の水循環のシンボリック存在が江津湖だ。江津湖は地下水が一日に約四十万トンも湧き出ており、湖畔には多数の動植物が生息している。環境省から「日本の重要湿地」に選定された江津湖だが、二〇一八年に湖の底でマイクロプラスチックが発見されている。マイクロプラスチックは、直径五ミリメートル以下の小さなプラスチックを指し、近年このマイクロプラスチックが人間の体内からも発見されるようになった。体内に入ると、がんや発育異常などを引き起こすことが報告されている。江津湖にはシービンという水中に浮遊するごみを自動的に回収する装置が三基設置してある。シービンにはペットボトルなどの大きなごみはもちろん、小さなビニール片などが回収され、その中にマイクロプラスチックも含まれている。シービンを設置した起業家の「きれいな水を後世に残したい」という思いに共感した。江津湖は加瀬川につながっており、下流では緑川と合流し、有明海へと流れ出ている。つまり、生活排水の流出や投棄されたゴミは何も手を打たなければ、そのまま海へと放出されるのだ。海洋生物がエサと間違えてマイクロプラスチックを食べて、海の生態系に重大な影響を及ぼしており、地球温暖化と同じく世界の緊急課題となっている。江津湖と水質を守ることは、私たちが使う水を守るだけ

でなく、熊本全域、引いては外国に通じる海を守ることになる。江津湖周辺は宅地化が進み水質悪化が心配された時期もあったが、多くの清掃ボランティア活動のおかげで、水質がきれいになってきている。チャンスがあれば、ボランティア活動に参加したい。

プラスチック削減の取り組み意識は、かなり個人差があり、エコバッグの推進やゴミ分別に加え、そもそもプラスチックの代表格であるペットボトル飲料を買わないなど自分にできることはやってはいるが、我が家のプラスチックごみは週に一度の収集日にもすごい量のごみを出していて、私は矛盾を感じている。一部の地域では、バルクショップといわれる持参した容器に量り売りをしてもらえるお店が普及し始めている。エコに対する意識を持ちながらプラスチックフリーを上手に楽しみながら利用することで、環境に優しい取り組みを長く続けることができると考える。

近頃、国連で採択されたSDGsのロゴをよく見かけるようになった。直近のレポートで日本のSDGsの達成度は世界で十七位だ。日本は環境問題に取り組んでいる印象を持っていたのに、十七位という結果は私にとっては意外に低いと感じた。このSDGsは十七の目標がある。人権、経済、社会、地球環境などの様々な分野の課題がある。目標達成に近づく項目もあれば、逆に目標から遠ざかった項目もあり、日本は大きな課題を残している現状がある。

私は今まで学校でSDGsを学ぶ機会がなかった。次の時代を担う私たちがSDGsを知り、世界の現状を共有すべきだと思う。学びを実践するきっかけにしたい。私ひとりでも効果は期待できない。私たちが地元熊本でできるSDGsを考え、今できる具体的な行動を一緒に考えていきましょう。